

多文化ヒューマンライブラリー in 北九州



Human Library

異文化との対話

ヒューマンライブラリーとは、多様な文化や背景、価値観を持つ方々が「本（語り手）」となり、「読者（聞き手）」と30分の対話を通して、「相互理解」を深める対話型イベントです。「本（語り手）」の歴史に耳を傾け、偏見や先入観を取り払うことを目指しています。

12月6日 土 13:30

北九州国際交流協会（コムシティ3階）

対象：中学生以上のどなたでも

定員20名（先着）

参加費：無料

申し込み：電話又はQRコード ➡



各回とも4グループに分かれ、同じ内容の対話をします。回が変わるごとに別のゲストのグループへ参加し、最大3名のゲストと対話を行うことができます。

【流れ】

①本（話し手）を選ぶ

④相互理解



③対話



②読書（聴く）



開会 注意事項の説明など 13:30～

第1部 13:35～14:05（休憩 14:05～14:20）

第2部 14:20～14:50（休憩 14:50～15:05）

第3部 15:05～15:35

公益財団法人 北九州国際交流協会
Kitakyushu International Association

☎093-643-5931 担当 李(イ)

Human Library

12/6 SAT. 13:30 北九州国際交流協会

異文化との対話

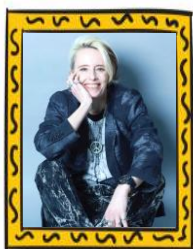
人間は、どんな本よりおもしろい



本のご紹介 (Today's Guests)

「みんなちがって、みんないい～

生きやすい社会の鍵」



クレシーニ・アン Anne Larson Crescini

米国・バージニア州生まれ。

北九州市立大学准教授。

2023年11月 日本国籍取得。

「前世は間違いなく日本人」と盛んに言われる程、日本語と日本文化をこよなく愛する福岡県民宗像人。幅広いテーマで講演及び執筆活動も精力的に行う。著書多数。テレビ、ラジオ出演多数。

「冒険を求めて、日本へ」



ブランドン モスコニ Brandon MOSCONI

2024年8月、英語指導助手 (ALT) として福岡県鞍手町に引っ越してきました。2022年に大学を卒業した後、ロンドン近郊の企業で働いていました。

最近日本では「多様性」という言葉をよく耳にするけど、「多様性」って一体何？そもそも「多様性」は必要？そして、必要なら日本社会でどういう形になるの？誰もが思える「生きやすい」社会になるために「多様性」は欠かせないものです。アメリカ系日本人のアンちゃんは、この大事なテーマについて語る。みんなの力で誰もが思える生きやすい社会を作ろう！

仕事は安定していて、給料も良かったのですが、一つだけ問題がありました。人生が退屈だったのです。このままでは、何もしないまま二十代が過ぎてしまう気がしました。私が本当に求めていたのは「冒険」でした。今回の対話では、なぜ日本に来る決断をしたのか、これまで築いてきた生活を手放すことの楽しさと苦勞、そして「冒険」が人生にとってどれほど大切かについてお話ししたいと思います。

「言葉のあいだに生きる～二度耳をすませて」



クリスティン 石井 Christine Ishii

北九州市総合観光案内所 店長

PERFECT+WORD STUDIOS 代表

キッズ2KIDS 世界を変えよう 代表

Photo by 「グラフふくおか」2025春号

「美と愛は、国境を越えて世界に響く共通語」



キュウ シウン 邱子芸

台湾出身の23歳。

早稲田大学大学院情報生産システム研究科修士2年生。

令和7年度小倉北区役所公認カメラマン。

異なる言葉の中で生きていくと、本当の理解とは、完璧な言葉を使うことではなく、そのあいだに流れる思いを聞くことなのだと感じます。文化が違ってても、本当のつながりは文法ではなく、共感や沈黙、そして分かち合う気持ちの中にあります。言葉のあいだに生きるということは、世界の声を二度聞くこと。ひとつは言葉を通じて、もうひとつは言葉と言葉のあいだにある静けさを通して。

私は大学院生として来日し、この一年間、本当に多くの方々と出会い、触れ合う中で、日本語だけでなく、日本の文化に対する理解を深めてきました。その一方で、カメラマンとして北九州の美しい景色や、人々の素敵な笑顔を写真に収めています。私が写真を通して気づかされたこと、それは「言葉では伝えきれない感動」も、実はこんなにも簡単に、ストレートに人々の心に届くということです。もちろん、人それぞれ好みはありますが、「美しさ」を求める気持ち、そして「愛」を大切にしたいという憧れは、きっと世界中の誰にも響き合うはずだと信じています。